

# XI. 「鳳バス」見直しの方向性

## 1. 現況と課題

これまでの調査結果に基づき、鳳バスに関する現況及び課題を整理する。

### 地域現況調査

- 村の東側には米軍用地が広がっており、村域の 35.8%を占めている。
- 東側は丘陵傾斜地（大半は米軍基地）で、西側は比較的平坦地である。
- 西側の平坦地に集落があるが、セーラの森公園周辺や座喜味城跡周辺の傾斜度が高い。
- 人口増が続いているが、将来的には緩やかな減少となる。ただし、平成 52 年でも現在の人口規模を維持していると考えられる。
- 人口は楚辺、波平、座喜味の順に多く、古堅で顕著に増加している。
- 年々、少子高齢化が進んでいるが、特に高齢人口の大幅な増加が予想されている。
- 村内には幼稚園 7 校（平成 26 年園児数 502 人）、小学校 5 校（同児童数 2,855 人）、中学校 2 校（同生徒数 1,547 人）、高校 1 校（同生徒数 965 人）が所在している。高校は村外への通学も多い。

### 生活利便施設等状況調査

- 生活利便施設の多くが国道 58 号や県道 6 号線、12 号線の沿線に立地している。
- 大型商業施設が村南部に所在しており、食品スーパーは村内に分散して立地しているが、北部の方が商業施設が少ない。
- 郵便局や銀行等の利便施設は伊良皆周辺、高志保等に立地している。
- 医療施設は瀬名波、都屋、古堅に立地している。
- 観光施設は残波岬をはじめとする海岸部に分散しているほか、座喜味城跡や喜名周辺にも立地している。
- 現在、大湾東地区及び大木地区で土地区画整理事業が進められている。また、国道 58 号のバイパスとなる読谷道路が整備中であり、一部区間が開通している。

### 交通・道路状況調査

- 昼夜間人口比は 85.4%で大幅に流出超過となっている。
- 通勤通学や買い物での流出先は沖縄市や嘉手納町、うるま市、宜野湾市、北谷町が多い。
- 交通手段は村外との流出入では 8 割以上、村内での移動についても 7 割強が自家用車となっており、公共交通はあまり利用されていない。
- 買回品の買い物では、うるま市や北谷町への流出が多く、9 割以上が自家用車を利用している。
- パーソントリップ調査での流入・流出の相手先は沖縄市と嘉手納町が多い。こちらも交通手段は 9 割程度が自家用車となっており、路線バスの利用は 1 割に満たない。
- 村内の移動についても 7 割が自家用車で、路線バスの分担率は 1.9%しかない。路線バスの利用は通学が主となっている。
- 村民一人あたりの自動車保有数は約 0.8 台で、5 人中 4 人が自動車を 1 台保有していることになる。
- 道路が特に混雑しているのは、国道 58 号の伊良皆交差点以南である。
- 道路網は国道 58 号と 3 本の県道が中心となっており、新たな主軸として読谷道路と中央残波線の整備が進められている

## 路線バス

- 村内の路線バスは7系統8路線であり、主に国道58号と県道6号線を運行している。
- 28番読谷線（楚辺経由）の運行本数が最も多く、120番名護西空港線と62番中部線（楚辺経由）の本数も多い。
- 赤字路線に対し、県や関係市町村などが赤字の補てんを行い、運行を継続している。
- 県OD調査によると、村内移動で最も利用が多いのは28番で、乗降数が多いバス停は他を引き離して「伊良皆」となっている。伊良皆は路線の分岐点でもあり、路線と利用が集中している。
- 那覇方面行きが多数運行しているものの、村内や嘉手納町、北谷町への移動が大半を占めており、那覇まで通して乗車する客は少ない。
- 石川地区への路線を除くと、流入・流出の多いうるま市へ直通する路線がない。

## 鳳バス

- 平成21年4月より運行しており、平成22年と25年に運行の見直しを行っている。
- 現在は平日が3ルート、土休日が1ルートを運行している。
- 運賃は一般が200円、小中学生・高齢者・障がい者が100円で、回数券、定期券、1日フリー乗車券を発行している。
- 平日はどのルートも村役場を起終点としている。土休日は読谷バスターミナルとイオンタウン読谷との往復ルートとなっている。
- 運行頻度は平日が1～1時間半に1本、土休日は2時間に1本である。
- 利用者は年間2万人程度、運賃収入は年間200～300万円程度で推移している。
- 乗客数や運賃収入は平成23年度をピークに減少傾向にある。

## 村民アンケート

- 8割弱が自動車運転免許を所持しており、ほとんどが自分で車を運転している。
- 運転できない人については、日常の移動手段の不便さを感じている人が多い。
- 外出する主な目的は通勤や通学、買い物、用事が多く、7割強がほぼ毎日外出しているが、自家用車を利用していない方は外出頻度が低い人も多い。
- 「よく出かける場所」は、商業施設が上位となったが、「バスで行けると便利だと思う場所」については、商業施設だけでなく学校や公共施設も上位となっている。
- 94.4%の回答者が「鳳バスを知っている」と回答しており、認知度は非常に高い。一方、利用したことがない人が76.4%に達しており、実際の利用は少ない。
- 「免許がなく運転できない」方の中でも、鳳バスの利用経験は半数にとどまっている。
- 73.9%が鳳バスの必要性を感じており、自家用車を利用する人たちも、自家用車を利用しない学生や高齢者、障がい者のために必要と認識している。一方で、自身や家族等が利用しないため必要ないとの意見もある。
- 運行サービスの満足度については、不満がやや優勢となっており、特に土休日の満足度が低い。
- 満足度が低いのが、「運行本数」、高いのが「運賃」や「運転手の質」である。
- 改善点として突出した項目はないが、利用しやすい運行としては「待ち時間が短い、時刻表どおりに運行している」が多い。
- 定時定路線型を望む声が多いが、4割がデマンド型バス導入に前向きな回答をしている。
- 平成25年の見直しについては、影響がないという回答が大半であったが、一部で「不便になった」や「利用回数が減った」という回答があった。

- 今後の改善により、全体の約 3 割、鳳バス未利用者でも約 2 割が利用意向を示している。
- 利用促進のための取り組みとしては、「わかりやすい路線図や時刻表の掲載・配布」が特に支持されている。

#### 利用者アンケート

- 回収数は 34 件にとどまり、小中学生と高齢者の回答が大半である。
- 利用は、北ルートが多く、休日南北ルートが少ない。
- 鳳バスをよく利用する時間帯は通学に合わせ 7～8 時台と 17～18 時台が多いほか、日中は 12、14 時台を除き 10～15 時台が多い。
- 村役場やイオンタウン読谷を起着点とする区間をよく利用しており、買い物や通学が主な利用目的となっている。
- 「ほぼ毎日」や「週 2、3 回」の利用が多く、利用しない場合の主な手段は路線バスや徒歩、家族等の送迎となっている。
- 高頻度で利用する回答者が多いにもかかわらず、回数券の利用は 2 割程度、定期券の利用は 1 割未満にとどまっている。
- 運行サービスの満足度については、平日は満足がやや優勢、土休日は不満がやや優勢となっている。特に運行本数に対する満足度が低い。
- 平成 25 年の見直しについて、利便性や利用回数に変化がないとの回答が多いが、村民アンケートと比べると、便利または不便になったとの回答が多く、利用者にとって見直しは影響が大きいと考えられる。
- 運行への要望としては、比較的現状維持を求める声が多いものの、本数増加や運行時間拡大が重視すべき改善点として挙がっている。
- デマンド型バスへの意向は少なく、現行の定期定路型バスへの意向が強い。

#### 観光客アンケート

- 7 割が県外客、2 割強が県内客からの回答である。
- 本島での宿泊は「2 泊」が多く、「日帰り」や「1 泊」と合わせると、7 割強が 2 泊 3 日以内と短期間の滞在である。
- 村内では御菓子御殿や残波岬への立ち寄りが多いが、宿泊のみの客も 2 割強いる。
- 交通手段は大半がレンタカー（主に県外）や自家用車（主に県内）で、路線バスやタクシーは非常に少ない。
- 7 割が路線バスの利用をはじめから考えていない。考えたがあきらめた方と実際に路線バスを利用している方がそれぞれ約 1 割となっている。
- 観光客の路線バス利用促進のための取り組みとしては、「バスのわかりやすさ」、「路線網」、「時間が適切」、「費用的メリット」が支持されている。

- 平日 2 日、土休日 2 日の利用者総数は 220 人で、小中学生や 60 代以上の利用が多い。
- 東西・南ルート（正）の利用者数は 39 人で、始発便や交代便を除く 3～4 便の利用が多く、始発便は中学生の通学、それ以降は読谷村役場等での用事やイオンタウン読谷での買い物等に利用されている。
- 東西・南ルート（正）の利用者数は 39 人で、午後の 5～6 便の利用が多く、イオンタウン読谷での買い物に利用されている。

- 北ルートの利用者数は89人と最も利用が多く、1～3便と午後の6便の利用が多い。東西・南ルートと比べると小学生の利用が多く、通学や読谷村役場等での用事に利用されているほか、既存バス路線網が不十分な地域を補完する役割を担っている。
- 休日南北ルートの利用者は53人で午後便の利用が多い。イオンタウン読谷での買い物や中学生の部活動等に利用されている。
- 北ルートの利用が最も多いが、利用者アンケートで少なかった休日南北ルートが2番目に多い。
- 中学生は北ルートと休日南北ルートの利用が多いが、高齢者は東西・南ルート（正および逆）も利用しており、休日南北ルートの利用が少ない。
- 小中学生は朝と夕方の通学時間に利用し、高齢者は朝以外の利用が多い。
- イオンタウン読谷、読谷村役場、健康増進センターバス停での乗降数が多い。一方、親志入口バス停など10か所のバス停では乗降がない。
- 東西・南ルート（正）と北ルートでは、特定箇所が遅延が頻繁に発生しているほか、夕方ではイオンタウン読谷周辺での交通状況により遅延が発生している。

- 路線バスの利用圏域は主要道路の沿線に限定されており、現在の鳳バスによって主要な集落や生活利便施設のほとんどがカバーできているようになっている。
- 公共交通空白地域は「西海岸沿い」、「残波岬周辺」、「村道残波中央線の国道58号—県道6号線間より南側」、「長浜ダム」の4エリアであるが、いずれも人口の少ないエリアである。
- 一部、バス停の間隔が開いているところでの新たなバス停の設定については検討の余地がある。
- 運行本数は全般的に路線バスが優勢となっている。特に「読谷バスターミナル～楚辺経由～嘉手納方面」の平日の運行本数が多い。
- 鳳バスの乗降が特に多いのは、路線バスが通っていない「村役場周辺」と「イオンタウン読谷」となっている。また、村北部の儀間・渡慶次地区の利用も多い。
- 村役場周辺へは、平日は鳳バスの利用が便利である。一方、土休日はルート沿いのみに限定される。
- イオンタウン読谷へは、平日は南側の住民、土休日はルート沿いの住民のみが行きやすい。平日の北側住民は村役場での乗り継ぎが必要となる。
- 読谷高校等があり、路線バスとの結節点でもある伊良皆へは、鳳バスの便が確保されているものの、路線バスの利便性が高いため、鳳バスが使いやすいエリアは限定的である。
- 村立図書館へは、平日は北側の住民、土休日はルート沿いの住民のみが行きやすい。また、路線バスの利用も可能である。
- 村診療所へは、平日は南側の住民が行きやすい。北ルートにもバス停があるとよい。また、路線バスの利用も可能である。休日は鳳バスの便がない。
- 観光施設については、バスのルートから離れて位置しているものが多く、現在の路線では観光客が利用しにくい。

## 2. 見直しの方向性

○利用者は多くないが、小中学生や60代以上の貴重な移動手段となっている。

---

⇒現在の利用者の利便性向上に取り組む。

⇒新たな利用客を発掘する。(運転免許がないのに鳳バスを利用していない人、高校生、古堅中学校への通学、観光客など)

○高校生の利用は多くない。

---

⇒高校への通学は路線バスが中心となっている。

⇒鳳バスは、読谷高校の通学に適した運行とはなっていない。

⇒路線バスでカバーできない地域について、通学の利便性を図るかどうかを検討する。

○利用者の目的地はある程度集中している。

---

⇒意向調査や乗降調査を踏まえ、5つの拠点(「村役場周辺」、「イオンタウン読谷」、「伊良皆」、「村立図書館」、「村診療所」)を設定し、特に拠点へのアクセスが改善するように運行を見直していく。

○バス停の位置や路線など、運行についての周知が十分でない。

---

⇒鳳バスの存在自体は広く認知されているが、どのようなルートなのか、どこにバス停があるのかといった周知が十分でない。

⇒利用者にわかりやすい情報を示すだけでなく、日常的に自家用車を利用している村民に対しても、周知活動に取り組み、鳳バス運行に対する理解促進と新たな利用者の発掘を図る。

○バス間の連携が十分でない。

---

⇒鳳バス同士の乗り継ぎについても考慮し、運行ダイヤの調整や乗り継ぎ運賃も設定などについて検討する。

⇒路線バスの交通結節点となっている伊良皆バス停について、鳳バスを含めた交通拠点化や鳳バスと路線バスとの接続の改善などを検討する。

○現状のバス停の位置で集落の大半がバスの利用圏域に入っている。

---

⇒利用が少ないバス停があるため、バス停の移動や路線変更など対応策を検討する。

⇒圏域カバーに重点をおくか、利便性向上に重点をおくかを考え、運行の見直しを検討する。

○運行本数を増加してほしいという要望がある。

---

⇒車内の混雑度には問題がないが、頻度が低いことによる時間的な抵抗感が大きいと思われる。

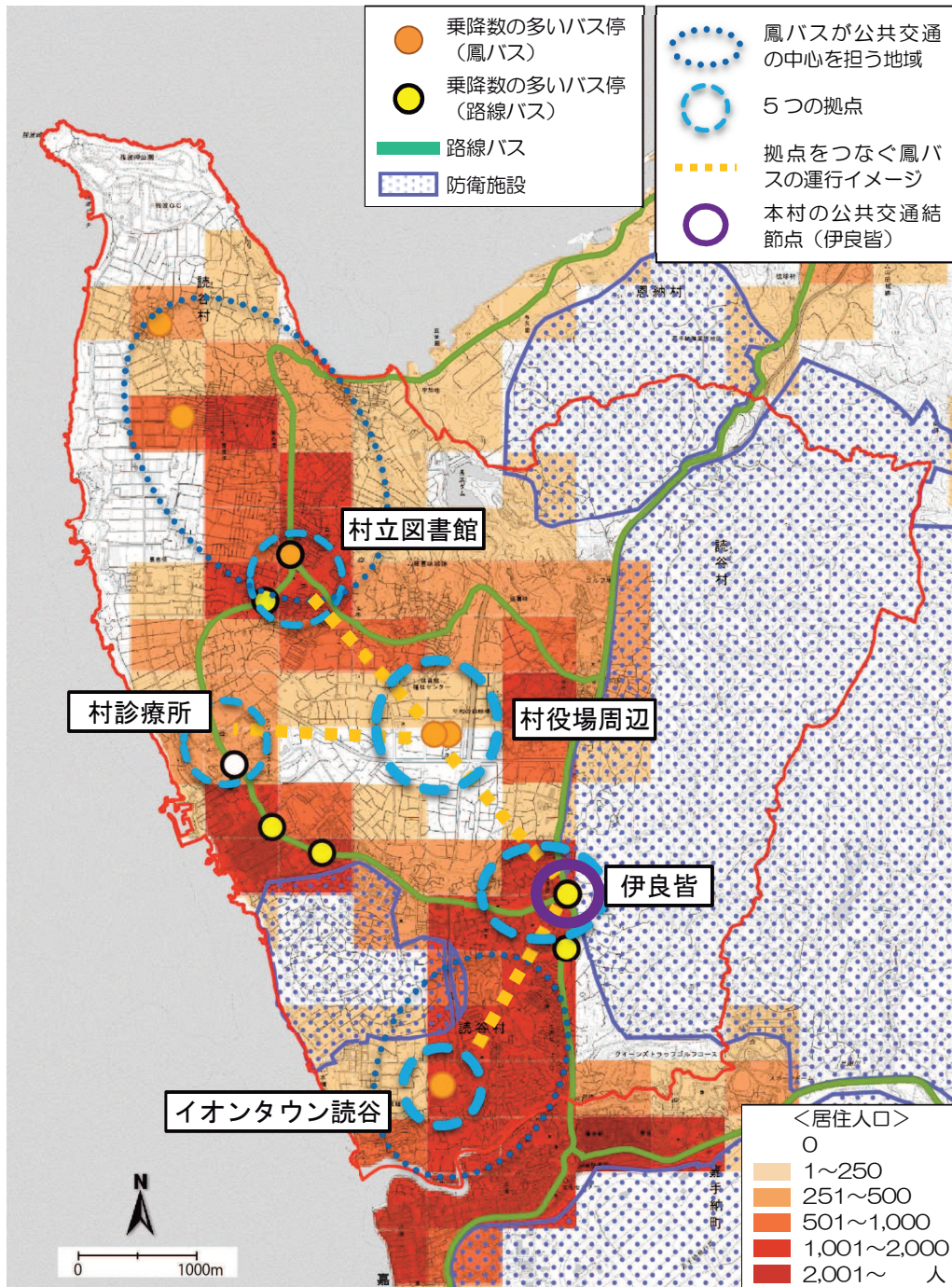
⇒路線の絞り込みで重点的に頻度を高くすることや、増車で対応することなど、運行本数を増やすことができるかを検討する。

### 3. 読谷村における公共交通の将来像

#### 将来像

健康の村を支える

「もっと外出しやすく暮らしやすい」公共交通ネットワークの形成



- 村民が自宅近くで公共交通が利用できるようなバス路線を構築します。
- 5つの拠点へのアクセスを重視して村内移動手段を確保します。
- 鳳バスと路線バスとが連携した総合的な公共交通網の充実を図ります。

#### 4. 検討すべき見直し内容の整理

##### 1) 村民アンケート調査を踏まえたバス停及びルートの検討

ここでは、これまでの調査と見直しの方向性を踏まえ、バス停及びルートの見直しについて検討する。

まず、「鳳バス」の運行についての村民アンケート調査による「バスで行けると便利だと思う場所」の結果を中心に必要なバス停について考える。

20 件以上挙げられた「バスで行けると便利だと思う場所」について、現在の最寄りバス停を整理したものが下表となる。

バスで行けると便利だと思う場所	回答数	最寄りバス停		備考
		鳳バス	路線バス	
読谷村役場	75	読谷村役場/健康増進センター	—	敷地内バス停(他に文化センター、健康増進センターが立地)
イオンタウン読谷ショッピングセンター	75	イオンタウン読谷	—	敷地内バス停(他にかなさん内科クリニック、美ら浜皮フ科クリニックが立地)
JA ゆんた市場	67	JA ゆんた市場	—	敷地内バス停
読谷高校	62	伊良皆	伊良皆	兼用(他に古堅中学校、琉球銀行、丸大伊良皆店が立地)
読谷中学校	58	読谷村役場/福祉センター	—	少し離れている
図書館	48	旧役場前/高志保入口	旧役場前/高志保入口	兼用、高志保入口は離れている(他に子育て支援センターが立地)
読谷村診療所	48	診療所	読谷診療所前	兼用(他に老人デイケア施設が立地)
琉球銀行 読谷支店	44	伊良皆	伊良皆	兼用(他に読谷高校、古堅中学校、丸大伊良皆店が立地)
古堅中学校	44	伊良皆	伊良皆	兼用(他に読谷高校、琉球銀行、丸大伊良皆店が立地)
健康増進センター	40	読谷村役場/健康増進センター	—	敷地内(他に村役場、文化センターが立地)
沖縄銀行 読谷支店	40	大木中道	大木	少し離れている(他に伊良皆郵便局、よみたん眼科が立地)
老人福祉センター セーラー苑	38	(診療所)	(読谷診療所前)	兼用、離れている
総合運動広場	36	読谷村役場/福祉センター	—	少し離れている
まつしまクリニック	36	川平	川平	兼用
マックスバリュ 都屋店	36	都屋	都屋	兼用、離れている
読谷郵便局	35	高志保入口	高志保入口	兼用(他に農協、沖縄海邦銀行が立地)
平和の森球場	34	読谷村役場/福祉センター	—	少し離れている
サンエー そべ食品館	34	大添	大添	少し離れている
買い物や用事などで近隣市町村	34	—	—	路線バスで利用可能

バスで行けると 便利だと思う場所	回答数	最寄りバス停		備考
		鳳バス	路線バス	
よみたん眼科	32	大木中道	大木	少し離れている(他に沖縄銀行、伊良皆郵便局が立地)
伊良皆郵便局	32	大木中道	大木	少し離れている(他に沖縄銀行、よみたん眼科が立地)
よみたん皮フ科	31	都屋	都屋	兼用、離れている
<b>そけん小児科</b>	30	診療所	読谷診療所前	兼用、少し離れている
よみたんクリニック	30	宇座公民館前	宇座公民館前	兼用、少し離れている
タウンプラザかねひで 読谷店	30	大当	大当	兼用、少し離れている
<b>生き生き健康センター</b>	29	診療所	読谷診療所前	兼用、少し離れている
ライフケアクリニック 長浜	29	瀬名波入口	瀬名波入口	兼用、少し離れている
玉城ファミリークリニ ック	29	都屋	都屋	兼用、離れている
<b>かなさん内科クリニッ ク</b>	29	イオンタウン 読谷	—	(他にイオンタウン読谷シ ョッピングセンター、美ら浜 皮フ科クリニックが立地)
丸大 読谷波平店	29	波平	波平	兼用、離れている
<b>文化センター</b>	28	読谷村役場/健 康増進センター	—	(他に村役場、健康増進セン ターが立地)
<b>総合福祉センター</b>	28	福祉センター	—	(他に勤労者体育センター が立地)
<b>子育て支援センター</b>	27	旧役場前/高志 保入口	旧役場前/高志 保入口	兼用、高志保入口は離れてい る(他に図書館が立地)
<b>丸大 伊良皆店</b>	27	伊良皆	伊良皆	兼用(他に読谷高校、古堅中 学校、琉球銀行が立地)
サンマート 喜名店	27	喜名	喜名	兼用、離れている
歴史民俗資料館	26	座喜味公民館	座喜味公民館	兼用、離れている(他に美術 館が立地)
<b>老人デイケア施設</b>	26	診療所	読谷診療所前	兼用(他に読谷村診療所が立 地)
<b>沖縄海邦銀行 読谷支 店</b>	26	高志保入口	高志保入口	兼用(他に農協、読谷郵便局 が立地)
美術館	25	座喜味公民館	座喜味公民館	兼用、離れている(他に歴史 民俗資料館が立地)
喜名郵便局	24	喜名	喜名	兼用、少し離れている
<b>農協 読谷支店</b>	24	高志保入口	高志保入口	兼用(他に読谷郵便局、沖縄 海邦銀行が立地)
<b>なかそね内科</b>	23	伊良皆	伊良皆	兼用、離れている
<b>古堅南クリニック</b>	23	イオンタウン 読谷	—	少し離れている
<b>美ら浜皮フ科クリニッ ク</b>	23	イオンタウン 読谷	—	(他にイオンタウン読谷シ ョッピングセンター、かなさ ん内科クリニックが立地)
<b>勤労者体育センター</b>	22	福祉センター	—	(他に総合福祉センターが 立地)

※太字は「5つの拠点」に位置する施設



この整理のように、少し歩く必要がある場所があるものの、バスですべての場所にアクセスすることが可能となっている。最寄りが鳳バスのバス停しかない場所もあり、現在の状況を今後も維持していく必要がある。

また、「5つの拠点」として位置付けた「村役場周辺」、「イオンタウン読谷」、「伊良皆」、「村立図書館」、「村診療所」の中に上記の場所が半数以上含まれており、5つの拠点へのアクセス向上を図ることにより、多くの村民の利便性を向上させることができるといえる。

「5つの拠点」の位置付けと考え方は、以下のように想定する。

#### 【村役場周辺】

鳳バスの全路線が村役場を経由する運行の拠点でもある。鳳バス同士の乗り継ぎについても考えたい。村役場止まりの運行については、隣接する福祉センター・健康増進センター・JA ゆんた市場でも乗降できるよう考えたい。

#### 【イオンタウン読谷】

本村の中心となる商業施設として、村全域からできるだけ乗り継ぎなしで買い物に行けるとよい。また、スペースが確保されているため、バスの時間調整を行うことができる場所でもある。周辺は渋滞による遅れが頻発する箇所であり、運行の検討には注意を要する。

#### 【伊良皆】

路線バスにおける本村の中心といえる場所であり、村内唯一の高校も所在する。路線バスでのアクセスが容易なので、路線バスと鳳バスで役割を分担して運行を考える必要がある。鳳バスについても、自宅最寄りバス停から伊良皆での乗り継ぎだけで路線バスに乗り継ぎできることにより、広域的な移動手段が確保できることになる。

#### 【村立図書館 及び 村診療所】

上記の3箇所よりは施設の集積が少ないことから、地域によっては、鳳バス同士の乗り継ぎで行けるようにすることも考えた運行とする。また、路線バスでのアクセスが容易なので、役割を分担して運行する。

さらに、「5つの拠点」以外に、以下のバス停の設置について。ルート想定とあわせて検討を行う。

セーラの森公園	公園の利用だけでなく、「老人福祉センター セーラー苑」の最寄りバス停となるもので、現在の最寄りである診療所から距離があるため、公園の入口付近にバス停を新設する。
マックスバリュ都屋店	村民アンケートの「よく出かける場所」では全体で4番目に回答の多かった施設である。最寄りの都屋バス停から距離があるため、店舗に近い位置にバス停を新設する。

丸大読谷波平店	「バスで行けると便利だと思う場所」で 20 件以上の回答があり、現状の大当一波平間ではバス停の間隔があるため、店舗に近い位置にバス停を新設する。
伊良皆北交差点付近	JA ゆんた市場－伊良皆間はバス停の間隔が離れている。また、村役場－伊良皆間は本数が多い区間となると想定されること、北側が喜名地区の集落の南端で利用者が見込めることなどを考慮し、伊良皆北交差点付近にバス停を新設する。
福祉センター－上地間の県道 6 号上 (座喜味地区)	現在、北ルートには座喜味公民館と座喜味にバス停があるものの、休日南北ルートなどでは福祉センター－上地間にバス停がない。同区間の途中にバス停を新設し、座喜味地区利用者の利便性を高める。
大木バス停の周辺 (沖縄銀行等)	大木バス停周辺は「よく出かける場所」や「バスで行けると便利だと思う場所」で上位となった沖縄銀行や伊良皆郵便局、よみたん眼科が位置している。現在は路線バスのバス停しかなく、鳳バスの大木中道や伊良皆バス停からは離れている。周辺施設の利用者を考慮し、大木交差点のできるだけ近くにバス停を新設する。
都屋漁港	都屋中道－都屋間に位置しており、海人食堂など観光目的の利用も考えられるため、バス停を新設する。

## 2) 乗込み調査を踏まえたバス停及びルートの検討

次に、「鳳バス」乗込み調査によるODの結果を中心に現在のルートごとにバス停及びルートの見直しについて考える。

### ①東西・南（正）ルート

バス停	乗降数	見直しの考え方(例)	見直しルート案への反映			
			1	2	3	4
読谷村役場	8	<p>村民がバスで利用したいという要望は高く、正逆の2便が停車しているが、平日の乗降客がいなかった。</p> <p>⇒経路上の立ち寄りであれば経由 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>⇒村役場止まりを延長 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>役場からの1周となるが、役場と健康増進センターを除くと、どのバス停も乗降客が少なかった。</p> <p>⇒全部経由しない <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>⇒喜名～横田公園をショートカット <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>				
健康増進センター	8					
JA ゆんた市場	0					
喜名西原	2					
喜名公民館前	1					
喜名	1					
親志入口	0					
シーレイク座喜味	2					
横田公園	2					
親志公民館西	1					
座喜味入口	0					
座喜味	0					
福祉センター	0					
伊良皆	2		<p>伊良皆～イオンタウン読谷間の乗降客が少なかった。</p> <p>⇒村役場～伊良皆～イオンタウン読谷を確保し、経由地を検討(このルートの選択) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>			
大木中道	1					
県営比謝団地南	0					
比謝公民館前	1					
大湾公民館前	1					
古堅	4	<p>イオンタウン読谷～診療所間も乗降客が少なかった。</p> <p>⇒イオンタウン読谷～診療所～村役場を確保し、経由地の検討(このルートの選択) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>				
イオンタウン読谷	13					
古堅小学校入口	0					
楚辺入口	0					
大添	1					
楚辺	1					
楚辺中道	1					
都屋中道	2					
都屋	0					
診療所	4					

②東西・南（逆）ルート

バス停	乗降数
読谷村役場	18
健康増進センター	3
診療所	3
都屋中道	3
楚辺中道	1
楚辺	0
大添	3
楚辺入口	0
古堅小学校入口	0
古堅皆呉原	2
渡具知	0
渡具知公民館前	0
渡具知後原	4
イオンタウン読谷	23
古堅南小学校	3
大湾西原	2
大木南	3
伊良皆	5
伊良皆公民館	3
JA ゆんた市場	0

見直しの考え方(例)	見直しルート案への反映			
	1	2	3	4
正逆ともに乗降客が少なかった。 ⇒経路上の立ち寄りであれば経由	△	○	○	△
正逆ともに乗降客が少なかった。 ⇒村役場～診療所～イオンタウン読谷 を確保し、経由地の検討(このルート の選択)			○	
離れており、立ち寄る形になるが、乗降客は特に多くはな かった。 ⇒空白地域をつくらないため運行を継 続				
⇒経由しない	○	○	○	○

③北ルート

バス停	乗降数
読谷バスターミナル	0
瀬名波入口	0
読谷村役場	44
健康増進センター	19
大当	2
波平	1
高志保入口	12
高志保	7
宇座公民館前	4
長浜吹出原	2
長浜公民館西	11
船地原	2
川平	0
瀬名波	8
渡慶次小学校	12
渡慶次公民館	6
宇座	14
儀間	14
渡慶次寺原	7
儀間公民館前	3
旧役場前	2
上地	3
座喜味公民館	0
座喜味	2
福祉センター	3

見直しの考え方(例)	見直しルート案への反映			
	1	2	3	4

迂回路となるが乗降客が少なかった。				
⇒経由しない	○		○	○
⇒診療所経由に変更		○		

乗降客が少なかった。				
⇒長浜公民館西の経路上の立ち寄りであれば経由	○	○	○	○

迂回路となるが乗降客が少なかった。				
⇒経由しない				
⇒どれかの便でカバーし、他はショートカット	○	○	○	○
⇒「座喜味下」バス停設置	○	○	○	○

④休日南北ルート

バス停	乗降数
読谷バスターミナル	4
瀬名波入口	0
宇座公民館前	5
高志保	4
高志保入口	3
旧役場前	8
上地	1
福祉センター	0
健康増進センター	18
JA ゆんた市場	5
伊良皆	5
大木中道	0
県営比謝団地南	0
比謝公民館前	0
大湾公民館前	0
古堅	0
イオンタウン読谷	47
古堅南小学校	4
大湾西原	0
大木南	2
伊良皆公民館	0

見直しの考え方(例)	見直しルート案への反映			
	1	2	3	4

乗降客がいなかった。				
⇒伊良皆～イオンタウン読谷を確保し、 経由地を検討(このルートの選択)	○	○		○

乗降客がいなかった。				
⇒経由しない	○	○	○	○
⇒大きな迂回ではないため変更しない				

### 3) 現行ダイヤで運行した場合の遅延の見直し検討箇所

さらに、「鳳バス」乗込み調査による遅延の結果を中心に、現行ダイヤで運行した場合の遅延の見直し検討箇所について考える。

#### ①東西・南（正）ルート

区間	対象便	所要時間の変更
JA ゆんた市場→喜名西原	2～6 便	2分→5分（3分繰り下げ）
伊良皆→大木中道	全便	1分→2分（1分繰り下げ）
大木中道→県営比謝団地南	全便	1分→2分（1分繰り下げ）
県営比謝団地南→比謝（国道）	全便	1分→2分（1分繰り下げ）
比謝（国道）→大湾（仮バス停）	全便	1分→2分（1分繰り下げ）
イオンタウン読谷→古堅小学校前	2～6 便	5分→6分（1分繰り下げ）
診療所→健康増進センター	全便	8分→5分（3分繰り上げ）

合計：1・7 便 1分繰り下げ、2～6 便 5分繰り下げ

#### ②東西・南ルート（逆）

区間	対象便	所要時間の変更
古堅皆呉原→渡具知	6～8 便	1分→2分（1分繰り下げ）
渡具知→渡具知公民館前	6～8 便	1分→2分（1分繰り下げ）
伊良皆公民館→JA ゆんた市場	全便	7分→6分（1分繰り上げ）

合計：6～8 便 1分繰り下げ、その他 1分繰り上げ

#### ③北ルート

区間	対象便	所要時間の変更
健康増進センター→大当	全便	4分→6分（2分繰り下げ）
波平→高志保入口	全便	1分→2分（1分繰り下げ）

合計：1 便 変更なし、その他 3分繰り下げ

#### ④休日南北ルート

区間	対象便	所要時間の変更
JA ゆんた市場→伊良皆公民館	全便	9分→6分（3分繰り上げ）
伊良皆公民館→JA ゆんた市場	全便	8分→6分（2分繰り上げ）

合計：全便 4分繰り上げ

#### 4) その他に検討が必要な事項

最後に、その他で検討が必要な事項を整理する。

##### ○現況調査からの示唆

見直しへの課題	見直しの考え方と取り組みの例示
村の人口は横ばいとなるが、今後も高齢者がさらに増えていく。	高齢者が自分で車を運転しなくても村内を移動できるような取り組みを考える。 ⇒路線バス運行の充実 ⇒鳳バスによる公共交通不便地域のカバー ⇒運賃や車両などにおける高齢者への配慮
村内の中学校は2校であり、地区によっては中学校まで距離がある。	親の送迎に頼らなくても、中学生が通学しやすい公共交通手段を確保する。 ⇒中学生の登下校に便利な運行 ⇒運賃などにおける中学生への配慮
高校は村内に1校で、他市町村へ通学する生徒も多い。	親の送迎に頼らなくても、高校生が通学しやすい公共交通手段を確保する。 ⇒読谷高校への登下校に便利な運行 ⇒他市町村の高校に通いやすい路線バスへ接続する路線の確保
村の北部には商業施設が少ない。	南部の商業施設へ行きやすい路線を確保する。 ⇒イオンタウン読谷への利便性の確保 ⇒マックスバリュ都屋店や丸大読谷波平店などへのバス停新設
読谷道路の整備が進められており、将来的には、現在の58号に代わり主要幹線道路となる。	将来的には、路線バスの再編も含めた運行の見直しが行われる可能性がある。 ⇒当面は現在の道路網を前提として運行
通勤・通学は他市町村への流出超過となっている。	村民の利用ニーズに即した鳳バスの運行により村内施設利用の利便性を高める。 ⇒利用の多い施設への利便性を確保 村外との交通利便性を高める。 ⇒路線バス接続の利便性を確保
村民の交通手段は自家用車が大半である。	自家用車からの利用転換を促す。 ⇒児童生徒の通学送迎の公共交通への転換 ⇒高齢者の免許返納の推進 ⇒幅広い村民に対する利用転換の意識啓発活動
買物流動についても他市町村へ流出している。	村民の買い物ニーズに即した鳳バスの運行により村内での購買率を高める。 ⇒利用の多い商業施設への利便性を確保 村外との交通利便性を高める。 ⇒路線バス接続の利便性を確保



見直しへの課題	見直しの考え方と取り組みの例示
鳳バスの利用状況としては北ルートが最も多く、休日南北ルートが最も少ない。ただし、1便あたりでは休日南北ルートの利用が最も多い。	休日運行については、元々利用者が少なく現在の運行となった経緯がある。土休日の需要が平日よりも低いことから、路線の大幅な拡充は妥当でない。 ⇒運行エリアの拡大 ⇒運行頻度の向上 ⇒利用ニーズから判断して現状程度の範囲で改善を考える
路線バスでの村内での移動は伊良皆が目的地となっている。	村民が伊良皆へ行きやすい路線を確保する。 ⇒路線バスと鳳バスの役割分担による伊良皆バス停へのアクセス性の向上
路線バスでの村外との移動も伊良皆の発着が多い。行き先は嘉手納町、北谷町、恩納村という近隣が多い。	村外への移動については、路線バスによるものとし、鳳バスで路線バスのバス停へアクセスすることにより、乗り継ぎ利用ができるようにする。 ⇒交通結節点としての伊良皆バス停の活用

○「鳳バス」に対するアンケート調査からの示唆

見直しへの課題	見直しの考え方と取り組みの例示
鳳バスの知名度は高いが、内容については詳しく知られていない可能性がある。(いつも客が乗っていないという批判の声もある)	村民に対する鳳バスの定期的な広報活動が必要である。 ⇒バスを利用したい方への利用PR ⇒ターゲットを絞った利用PR(学校や主要施設ごとに作成)
「免許がなく運転できない」方の中でも、鳳バスの利用経験は半数にとどまっている。	⇒マイカー利用者に対する鳳バスの意義の広報活動(収支等についても明らかに)
利用促進のための取り組みとしては、「わかりやすい路線図や時刻表の掲載・配布」が特に支持されている。	
運行の変更による一時的な乗客離れが懸念される。	長期的な視点で、確実に利用者ニーズに合致した運行としていく。 ⇒広報活動 ⇒利用者ニーズを確認し運行を調整
高頻度で利用する回答者が多いにもかかわらず、回数券の利用は2割程度、定期券の利用は1割未満にとどまっている。	費用的な負担を軽減し、利用を増やしていくために、定期券、回数券、1日乗車券の利用を促す。 ⇒回数券や定期券の利用PR
デマンド型の運行について検討する。	よりニーズの少ない利用に柔軟に対応できることから、デマンドについても導入の検討を行う。 ⇒観光客向け ⇒休日の運行 ⇒長く歩けない高齢者向け

見直しへの課題	見直しの考え方と取り組みの例示
比較的土日の満足度が低い。	一般的に学校や村役場は休みである。買い物も家族での自家用車の利用が多くなる。そのため、休日はバスの利用が平日よりも少なく、平日と同じ運行は難しい。 ⇒運行エリアの拡大 ⇒運行頻度の向上 ⇒利用ニーズから判断して現状程度の範囲で改善を検討

### 村民の要望

- 理想の運行間隔は 30 分に 1 本である。
- ⇒ルートを手短かにして頻度を上げる。
- ⇒ルートを手短かにして 1 ルートに 2 台投入する。
- ⇒車両を増やす。
- ⇒利用者とのバランスを考慮し、過剰サービスとならないよう留意する。
- バス停に屋根を設置してほしい。
- ⇒主要バス停に上屋やベンチを設置する。
- 遅い時間（21 時台・22 時台）まで運行してほしい。
- ⇒運行時間拡大を検討する。
- ⇒ただし、現状で平日 19 時台の利用者が少ない。
- 待ち時間が短く、時刻表どおりに運行してほしい。
- ⇒遅延箇所の影響を少なくするようなルートを検討する。
- ⇒遅延実態に合わせたダイヤを見直す。
- 迂回に対して不満がある。
- ⇒無駄な迂回を避けるようなルートを検討する。
- 路線数・経由地・ルートについては、平日よりも 1 ルートしかない休日の方が満足度が高い。
- ⇒利用圏域内の住民であれば、村役場～伊良皆～イオンタウン読谷をつなぐ路線の方が使い勝手がよい。

### ○観光客アンケート調査からの示唆

見直しへの課題	見直しの考え方と取り組みの例示
宿泊客は 2 泊 3 日以内の短期滞在が多く、時間的な余裕が少ない。	頻度の少ないバスを待つという観光客はかなり少ないと想定される。 ⇒観光客のニーズに対応できるような運行ができるかどうかを検討
御菓子御殿や残波岬への立ち寄りが多いが、現在のバスでは行けない。	観光地での公共交通手段を検討する。 ⇒鳳バスのルート追加 ⇒デマンド型による新たな観光交通手段の検討

見直しへの課題	見直しの考え方と取り組みの例示
大半が路線バスの利用をはじめから考えていないが、考えたがあきらめた方や実際に路線バスを利用している方もいる。	「考えたがあきらめた」方が利用したくなる公共交通での観光を考える。 観光客へアピールできる公共交通を考える。 ⇒周知活動の充実
観光客の路線バス利用促進のための取り組みとしては、「バスのわかりやすさ」、「路線網」、「時間が適切」、「費用的メリット」が支持されている。	⇒観光周遊バスの運行 ⇒観光客向けのわかりやすいバスを利用した観光リーフレットの作成 ⇒観光施設や飲食店と連携した公共交通利用特典の導入 ⇒観光施設最寄りバス停での周辺案内板の設置 ⇒わかりやすく待ちやすいバス停の整備

## ○その他

### バス停名称の見直し

[施設をわかりやすく示すもの]

- ◆旧役場→旧役場・図書館
- ◆福祉センター→福祉センター・体育センター・花織会館
- ◆健康増進センター→健康増進センター・文化センター

[観光資源を示すもの]

- ◆親志公民館西→やちむんの里入口
- ◆喜名→道の駅喜名番所
- ◆座喜味公民館→座喜味城入口
- ◆福祉センター→福祉センター・体育センター・花織会館

### 利用促進方策

- ・1日フリー乗車券による路線バスの割引
- ・使用済みフリー乗車券を集めて新しいフリー乗車券と交換
- ・免許自主返納者に対する割引
- ・商業施設等と連携した公共交通利用特典の導入

## 5. 今後の検討に向けたルート見直し案

### 【共通事項】

○現在の車両で運行する。

○既に運行開始から6年が経過し、利用者にとっては定着したものとなっていること、バスの利用圏域がほぼ主要な集落をカバーしていることなどから、現在の路線をベースに検討を行う。仮に新たに路線を設定する場合でも、路線バスの状況、主要施設へのアクセス、地形や運行できる道路などから考え、結果的にはほぼ変わらない路線となると思われる。

○利用者が少なく、迂回路に位置し、近隣にバス停があるところなどをショートカットする。

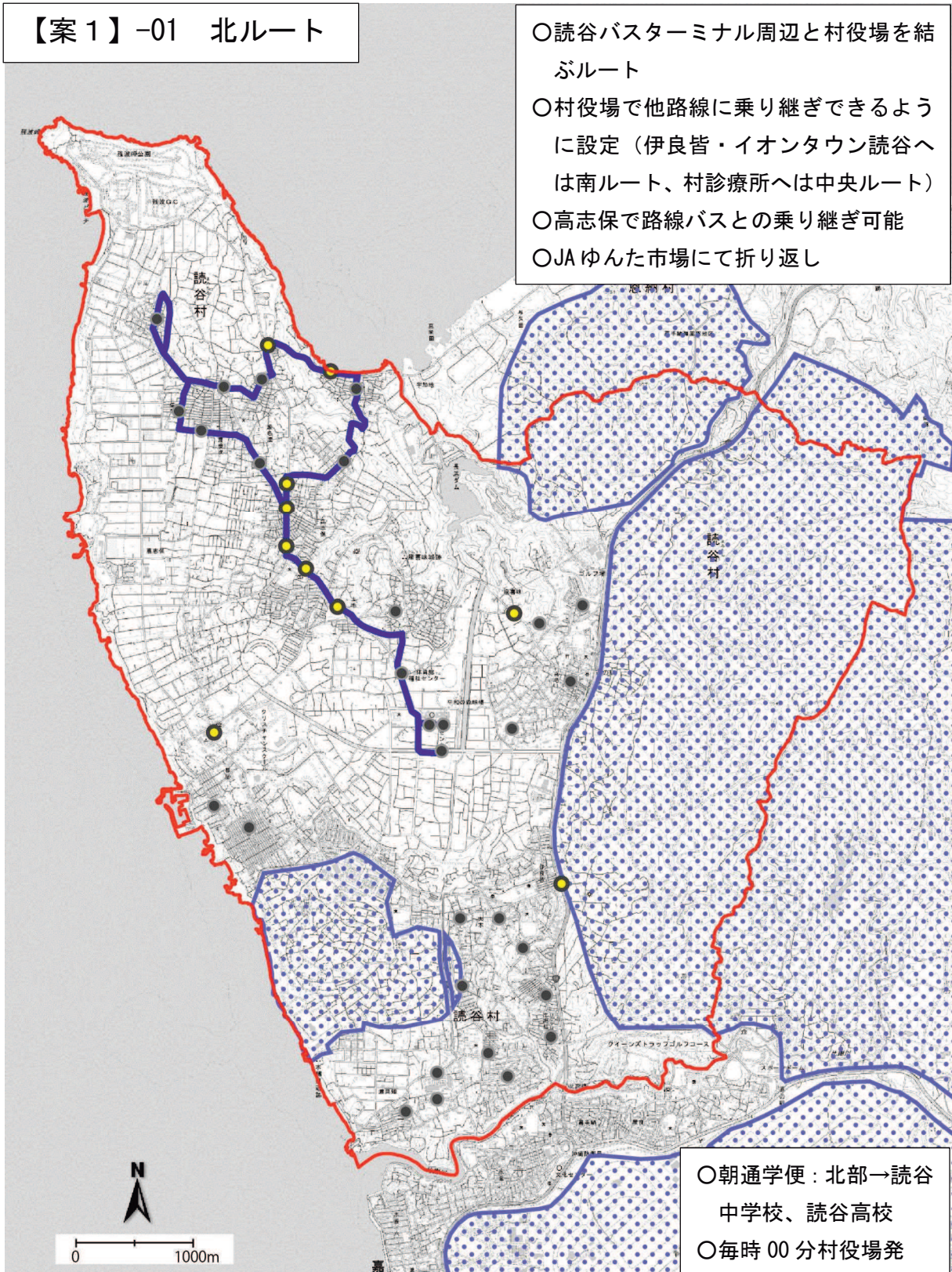
○基本的にすべてのルートが「福祉センター」－「健康増進センター」－「村役場」－「JA ゆんた市場」を経由するよう設定している。例えば、北側から村役場に向かう場合、JA ゆんた市場で折り返し、南側からの場合は、福祉センターで折り返し、その後、回送で村役場に戻り待機する想定となっている。

### 【運行想定】

		延長	所要時間
案1	北ルート	13.5 km	49 分
	南ルート	13.5 km	51 分
	中央ルート	13.5 km	49 分
案2	南北ルート(2台)	27.5 km	102 分
	東西ルート	15.5 km	58 分
案3	南北ルート	23.0 km	87 分
	西ルート	22.5 km	84 分
	東ルート	17.5 km	64 分
案4	南北ルート	27.5 km	102 分
	北ルート(村診療所)	19.3 km	73 分
	北ルート(喜名)	19.6 km	74 分
	南ルート(村診療所)	19.8 km	75 分
	南ルート(喜名)	19.6 km	74 分

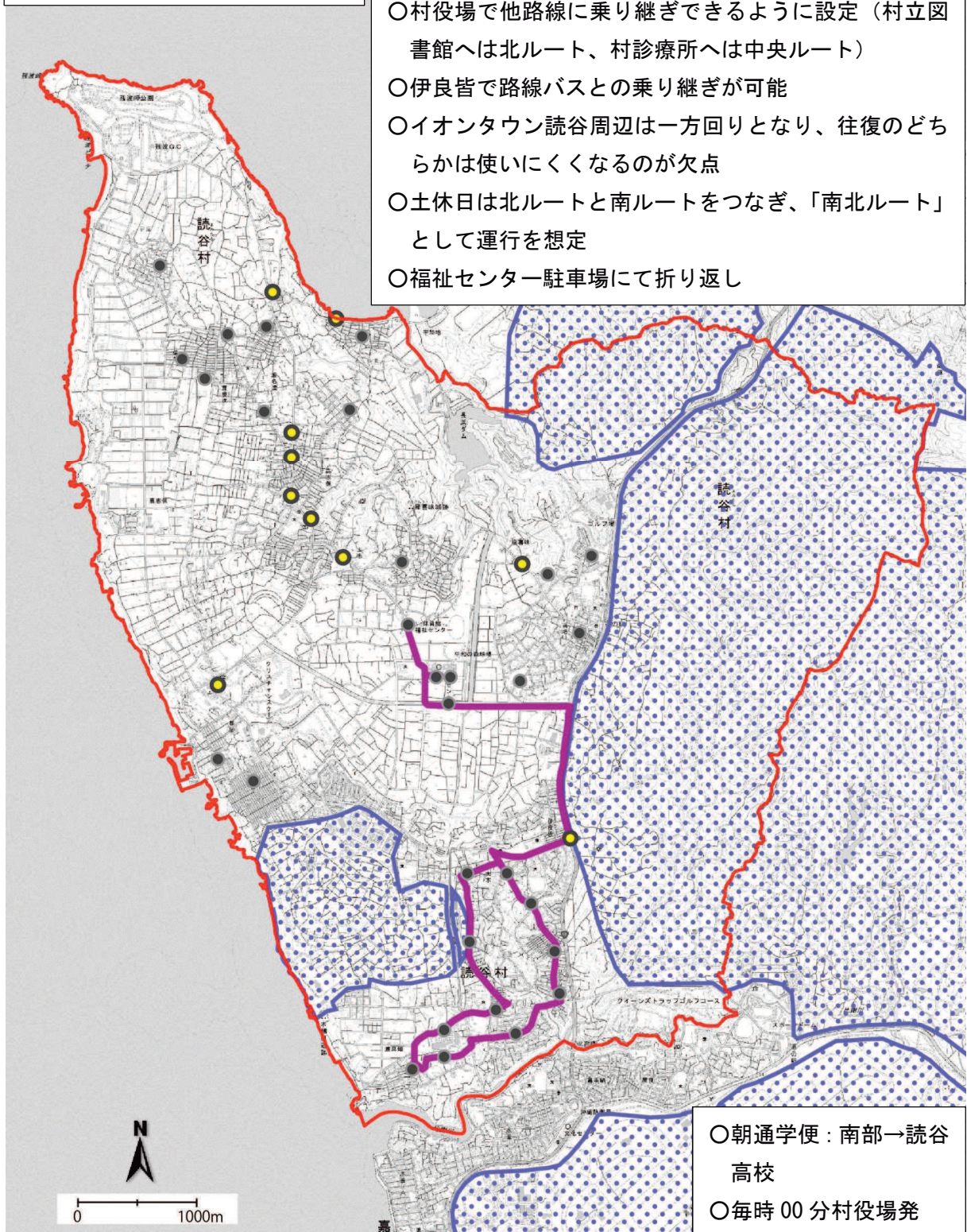
【案1】-01 北ルート

- 読谷バスターミナル周辺と村役場を結ぶルート
- 村役場で他路線に乗り継ぎできるように設定（伊良皆・イオンタウン読谷へは南ルート、村診療所へは中央ルート）
- 高志保で路線バスとの乗り継ぎ可能
- JAゆんた市場にて折り返し



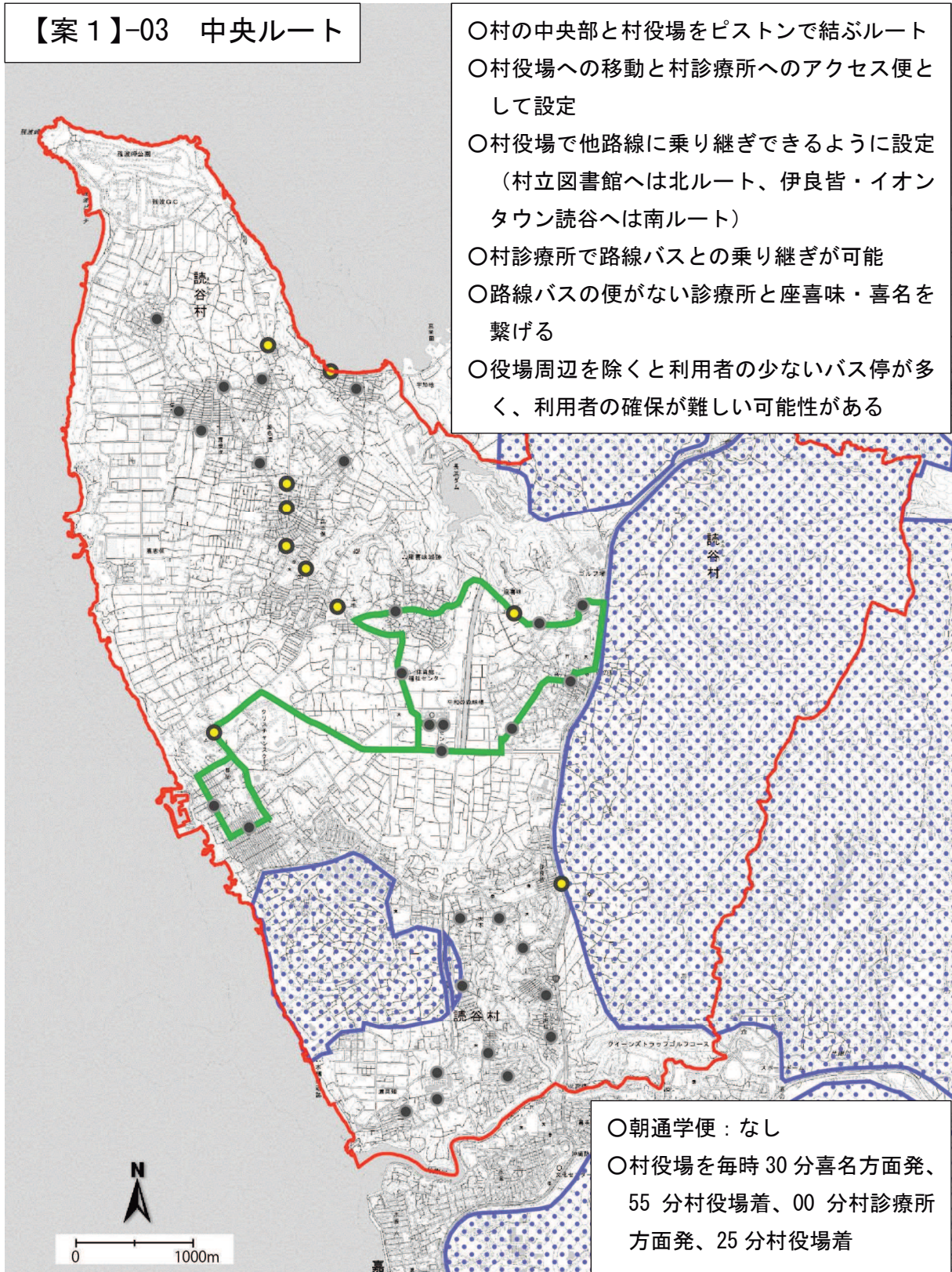
【案1】-02 南ルート

- 伊良皆経由でイオンタウン読谷と村役場を結ぶルート
- 村役場で他路線に乗り継ぎできるように設定（村立図書館へは北ルート、村診療所へは中央ルート）
- 伊良皆で路線バスとの乗り継ぎが可能
- イオンタウン読谷周辺は一方回りとなり、往復のどちらかは使いにくくなるのが欠点
- 土休日は北ルートと南ルートをつなぎ、「南北ルート」として運行を想定
- 福祉センター駐車場にて折り返し



- 朝通学便：南部→読谷  
高校
- 毎時00分村役場発

【案1】-03 中央ルート

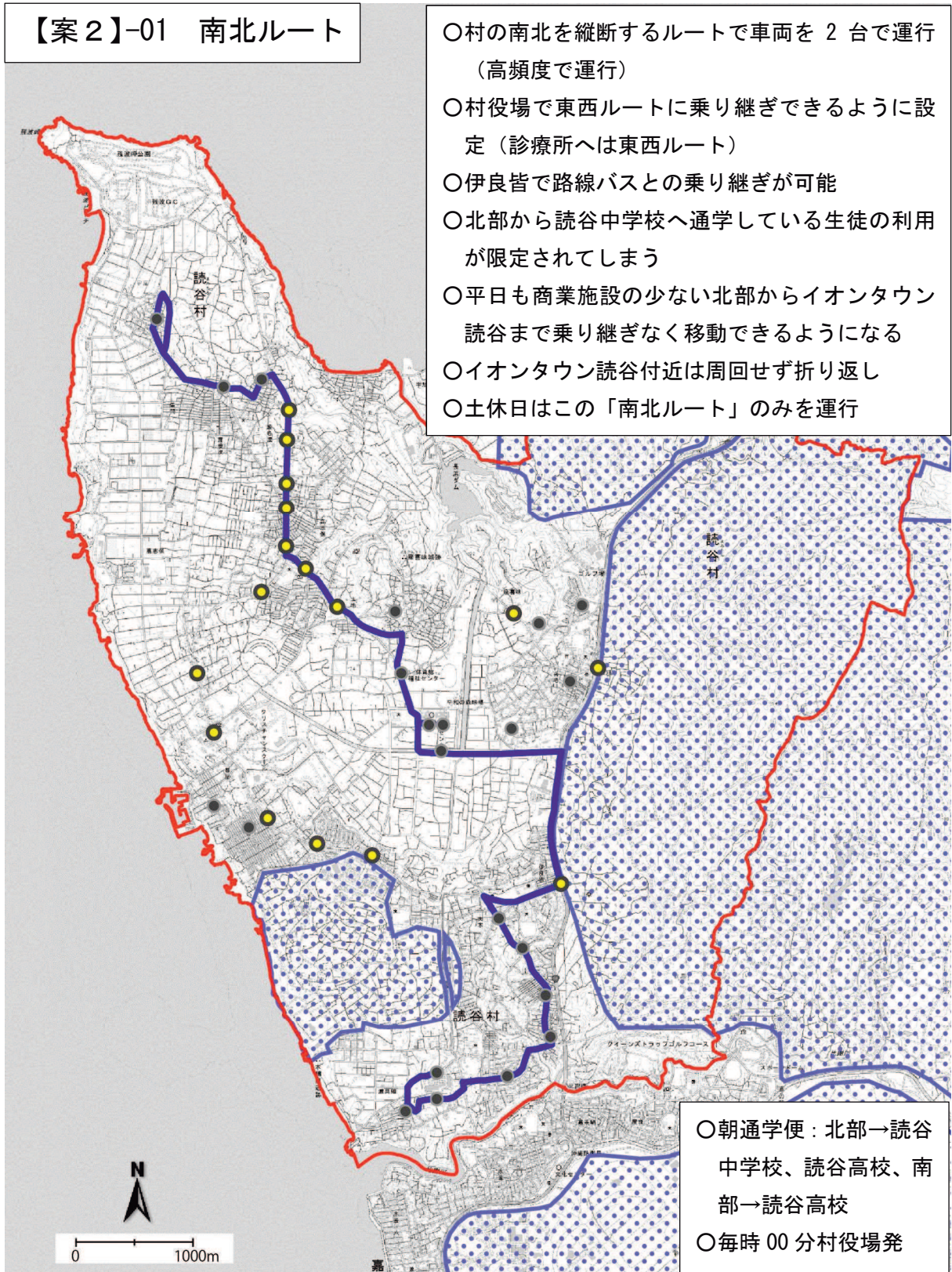


- 村の中央部と村役場をピストンで結ぶルート
- 村役場への移動と村診療所へのアクセス便として設定
- 村役場で他路線に乗り継ぎできるように設定  
(村立図書館へは北ルート、伊良皆・イオンタウン読谷へは南ルート)
- 村診療所で路線バスとの乗り継ぎが可能
- 路線バスの便がない診療所と座喜味・喜名を繋げる
- 役場周辺を除くと利用者の少ないバス停が多く、利用者の確保が難しい可能性がある

- 朝通学便：なし
- 村役場を毎時 30 分喜名方面発、55 分村役場着、00 分村診療所方面発、25 分村役場着

【案2】-01 南北ルート

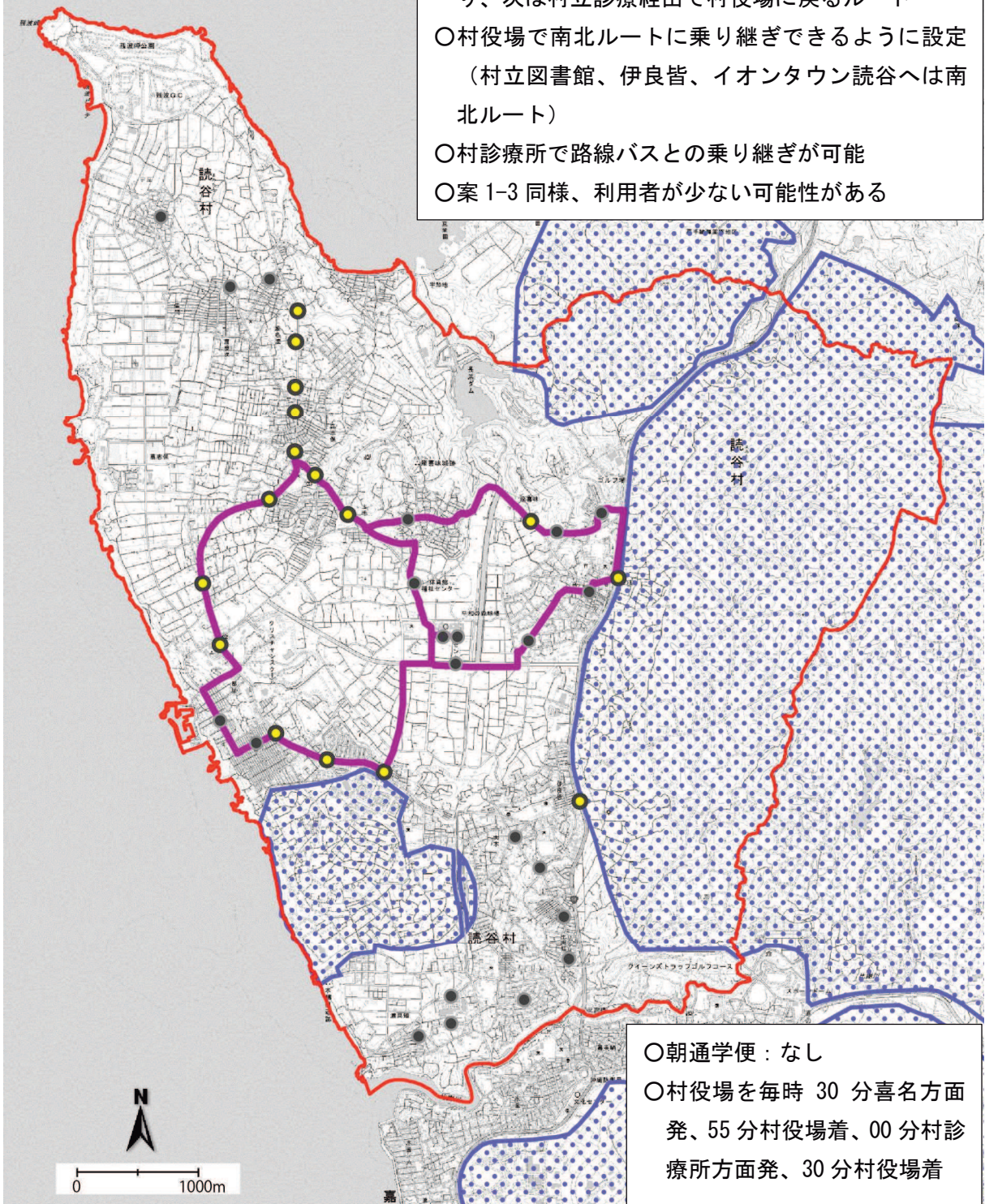
- 村の南北を縦断するルートで車両を2台で運行  
(高頻度で運行)
- 村役場で東西ルートに乗り継ぎできるように設定  
(診療所へは東西ルート)
- 伊良皆で路線バスとの乗り継ぎが可能
- 北部から読谷中学校へ通学している生徒の利用  
が限定されてしまう
- 平日も商業施設の少ない北部からイオンタウン  
読谷まで乗り継ぎなく移動できるようになる
- イオンタウン読谷付近は周回せず折り返し
- 土休日はこの「南北ルート」のみを運行





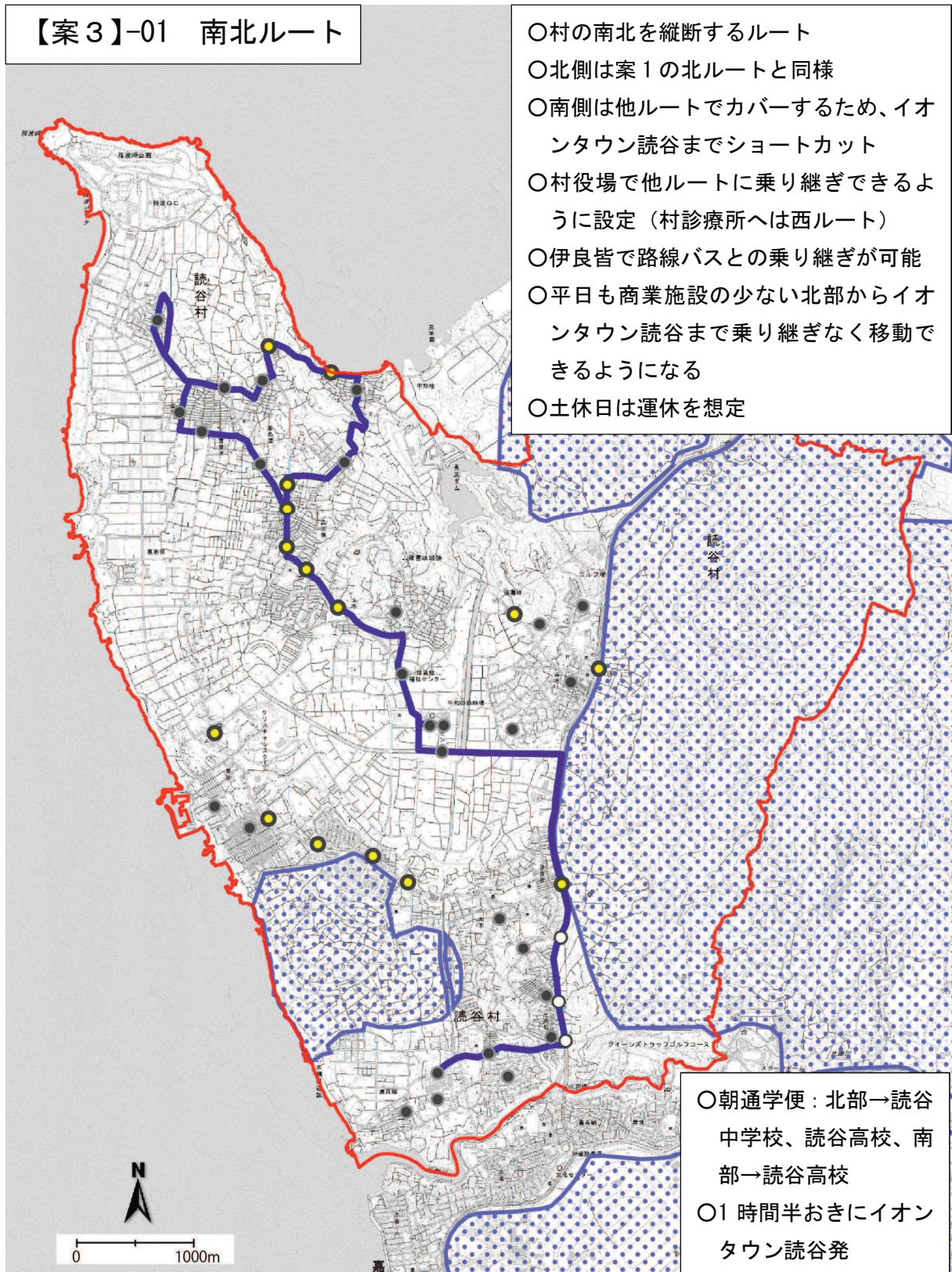
【案2】-02 東西ルート

- 村の東西を横断するルート
- 運行としては、村役場から喜名経由で村役場に戻り、次は村立診療所経由で村役場に戻るルート
- 村役場で南北ルートに乗り継ぎできるように設定（村立図書館、伊良皆、イオンタウン読谷へは南北ルート）
- 村診療所で路線バスとの乗り継ぎが可能
- 案1-3同様、利用者が少ない可能性がある



- 朝通学便：なし
- 村役場を毎時 30 分喜名方面発、55 分村役場着、00 分村診療所方面発、30 分村役場着

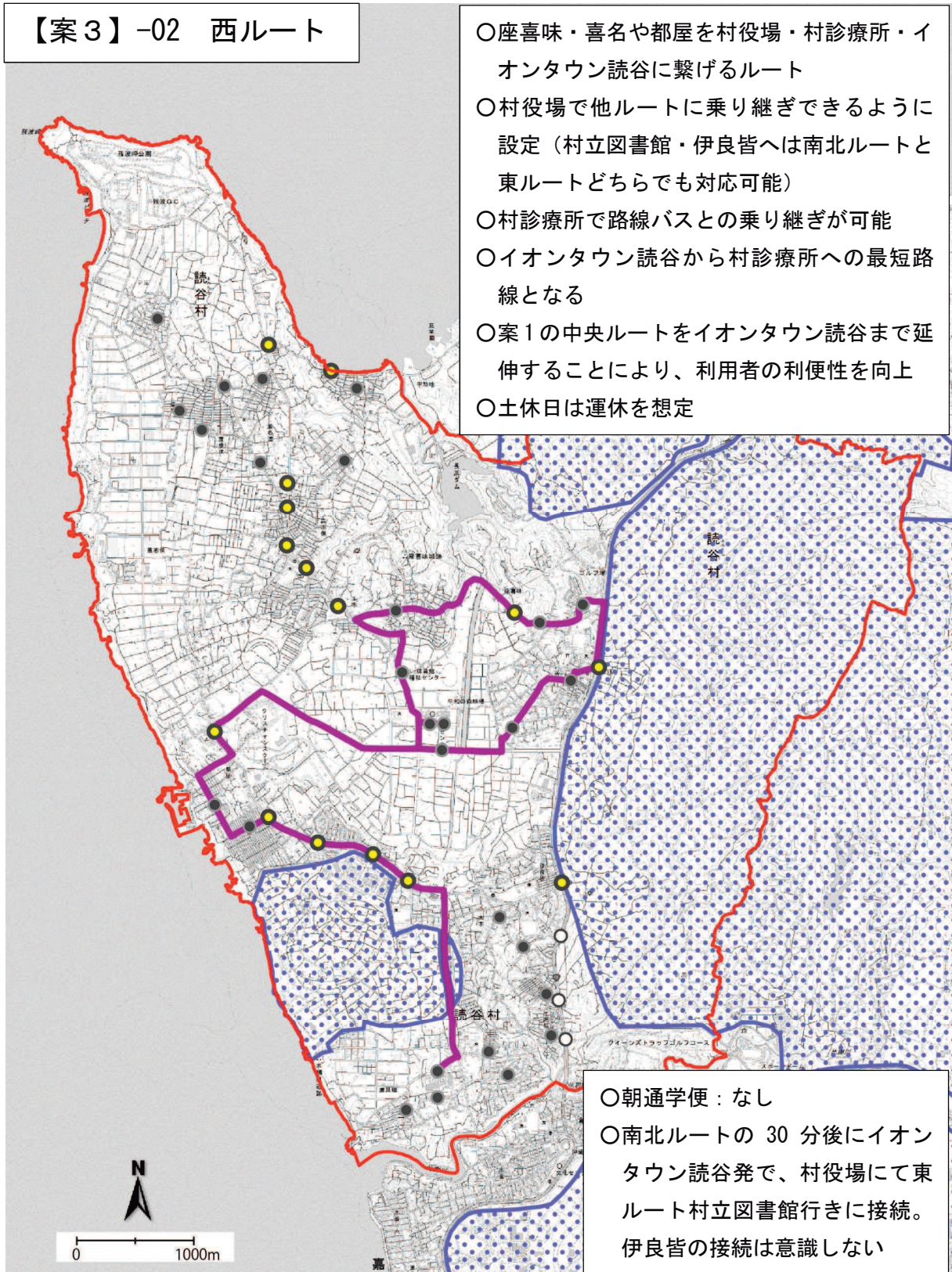
【案3】-01 南北ルート



- 村の南北を縦断するルート
- 北側は案1の北ルートと同様
- 南側は他ルートでカバーするため、イオンタウン読谷までショートカット
- 村役場で他ルートに乗り継ぎできるように設定（村診療所へは西ルート）
- 伊良皆で路線バスとの乗り継ぎが可能
- 平日も商業施設の少ない北部からイオンタウン読谷まで乗り継ぎなく移動できるようになる
- 土休日は運休を想定

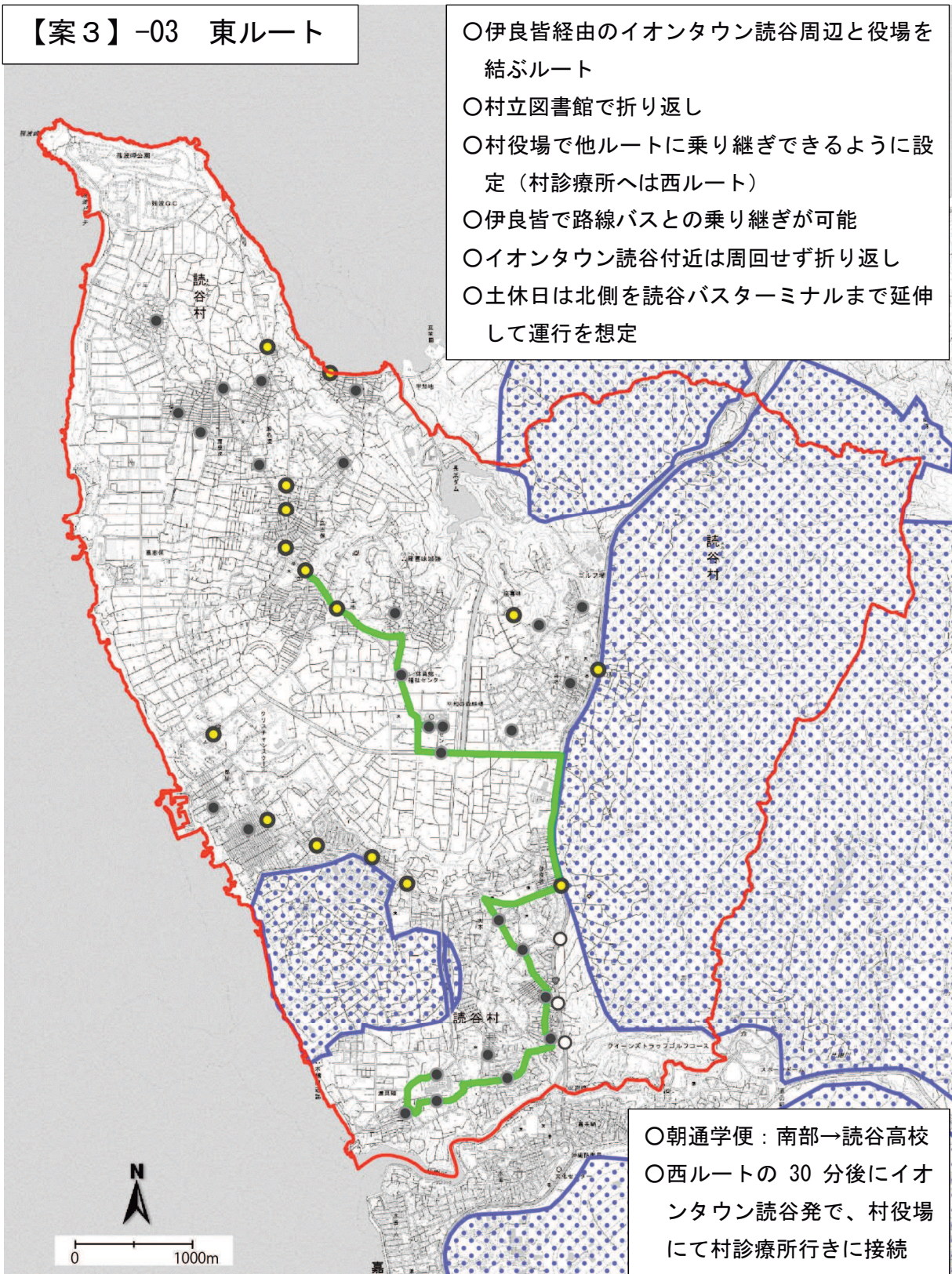
- 朝通学便：北部→読谷中学校、読谷高校、南部→読谷高校
- 1 時間半おきにイオンタウン読谷発

【案3】-02 西ルート



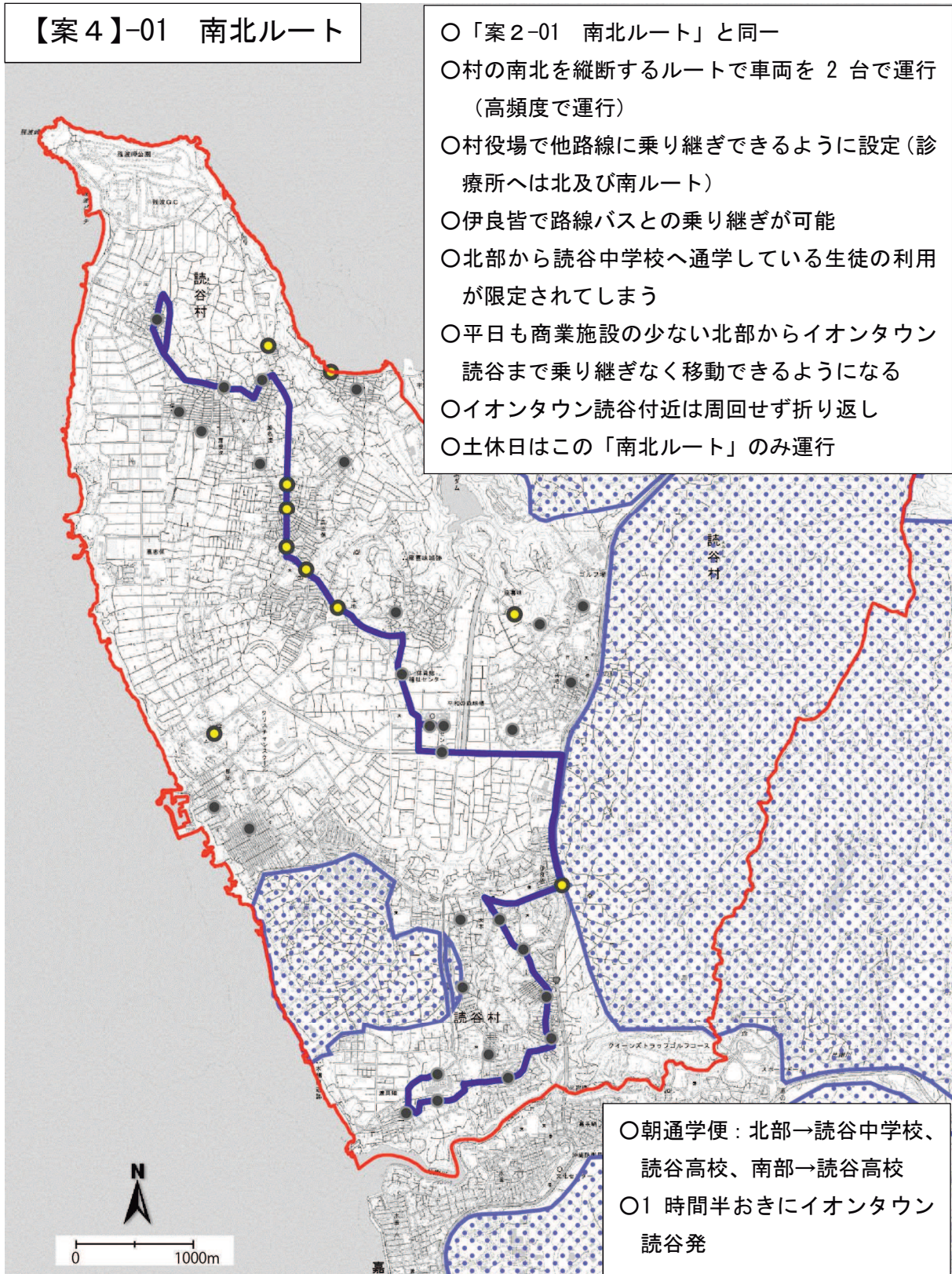
【案3】-03 東ルート

- 伊良皆経由のイオンタウン読谷周辺と役場を結ぶルート
- 村立図書館で折り返し
- 村役場で他ルートに乗り継ぎできるように設定（村診療所へは西ルート）
- 伊良皆で路線バスとの乗り継ぎが可能
- イオンタウン読谷付近は周回せず折り返し
- 土休日は北側を読谷バスターミナルまで延伸して運行を想定



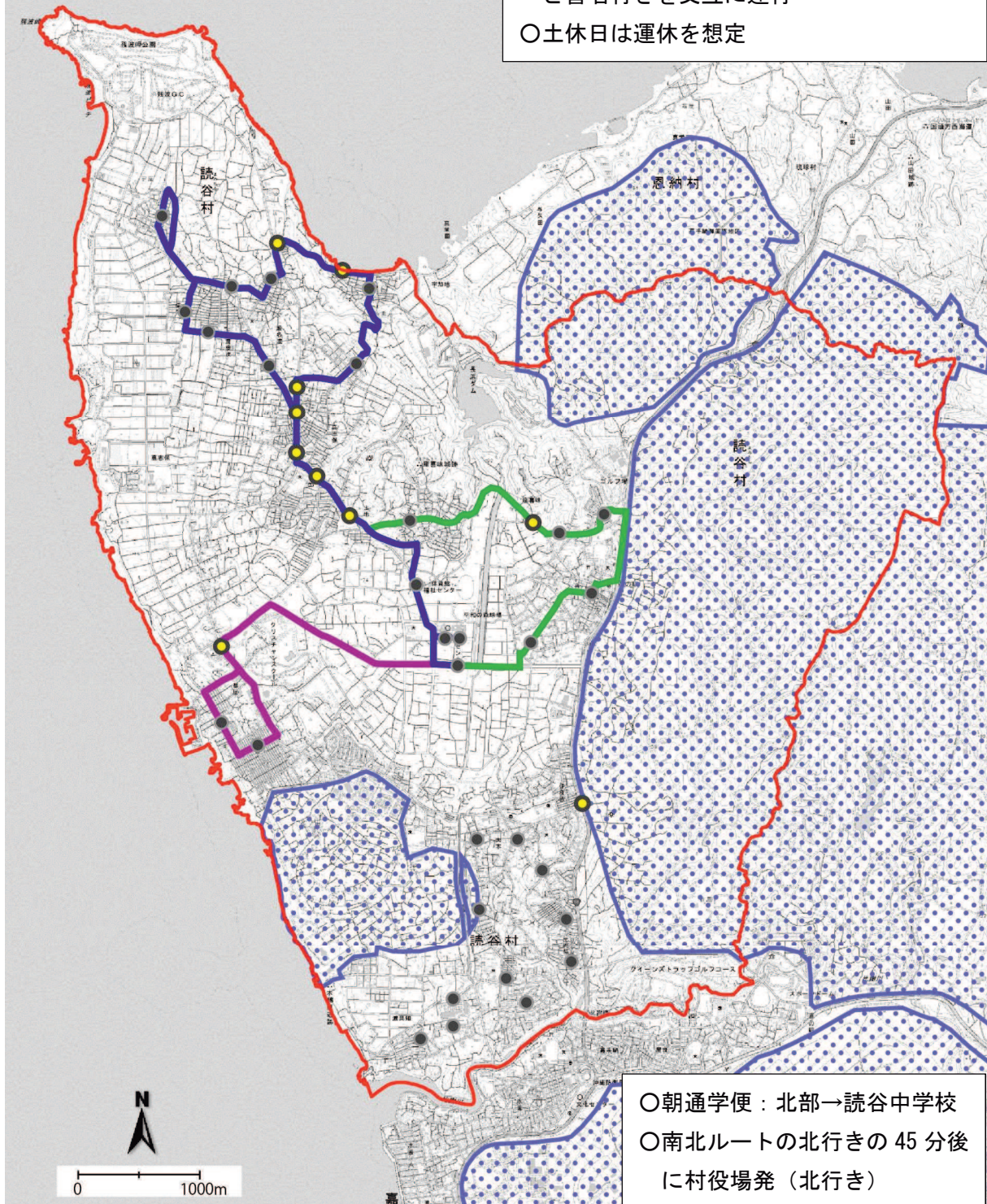
- 朝通学便：南部→読谷高校
- 西ルートの30分後にイオンタウン読谷発で、村役場にて村診療所行きに接続

【案4】-01 南北ルート



【案4】-02 北ルート

- 村役場周辺までは案1の北ルートと同様
- JAゆんた市場で折り返し後、村診療所行きと喜名行きを交互に運行
- 土休日は運休を想定



【案4】-03 南ルート

- 村役場周辺までは案1の南ルートと同様
- 福祉センターで折り返し後、村診療所行きと喜名行きを交互に運行
- 土休日は運休を想定

